

## 令和3年度第1回登別市総合教育会議議事録

日 時 令和3年7月12日（月） 13時30分  
場 所 登別市役所 第2委員会室

## 令和3年度第1回 登別市総合教育会議議事日程

- 1 日 時 令和3年7月12日（月）13時30分
- 2 場 所 登別市役所第2委員会室（市役所本庁舎2F）
3. 質疑応答
  - （1）登別市重大事案対策委員会調査報告書及びこれに対する遺族の所見について
  - （2）登別市立中学校における重大事態の再発防止策について
4. その他

### 出席者

市 長	小笠原 春 一
副市長	伊 藤 嘉 規
教育長	武 田 博
教育委員	赤 井 秀 輝
教育委員	堅 田 裕
教育委員	木 村 雅 美

### 事務局

総務部長	松 田 毅
総務部次長	土 門 和 宏
総務部次長	井 上 昭 人
総務部総務グループ総括主幹	篠 原 知 紀
総務部企画調整グループ総括主幹	服 部 仁
総務部企画調整グループ主幹	近 間 聡 史

### オブザーバー

教育部長	堀 井 貴 之
教育部参与	中 島 英 治
教育部次長	近 藤 正 嗣
教育部学校教育グループ総括主幹	笠 井 康 之
教育部学校教育グループ学務主幹	中 井 英 和

**服部総括主幹:** それでは定刻となりましたのでこれより、令和3年度第1回登別市総合教育会議を開催いたします。

初めに、開催に際しまして、市長より挨拶をお願いします。

**小笠原市長:** 皆さん本日はお忙しい中、令和3年度第1回総合教育会議にご参加をいただきまして、まずは心から厚く御礼を申し上げます。

日頃から教育委員の皆様には、教育行政はもとより、市政運営全般にわたりましてご協力、そしてご尽力いただいておりますことを、この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。

さて、昨年6月に発生しました、登別市立中学校生徒の死亡事案については、市立中学校に通う生徒の尊い命が失われたという事実を重く受け止めまして、事案発生後、直ちに総合教育会議を招集し、6月25日重大事態の発生に関し報告を受けました。

今後の対応についても、情報共有を行ってまいりました。

その際に、第三者委員会の設置についてお願いをさせていただきました。

教育委員会の方では、早急に登別市重大事案対策委員会に対し、事実関係の調査に係る諮問を行っていただき、本年3月に、同対策委員会より調査報告書の答申を受けております。

その後、教育委員会では同報告書の答申内容などを踏まえて、これまでの取組の精査、検証に努められ、そして、再発防止策を策定し、7月1日、調査報告書に対する遺族の所見等を合わせて手交を

受けたところであります。

ご遺族をはじめとする関係者の皆様の心情、調査に当たられました対策委員会の皆様のご尽力に思いを致しながら、調査報告書や再発防止策の精査を進めてまいりました。

重大事案対策委員会においては、約9ヶ月の時間をかけて慎重かつ詳細な調査を行い、その調査結果をもとに、公平かつ公正な事実関係の検証を行ったものと受け止めておりますが、遺族の皆様への対応や再発防止策の内容などに関し、いくつか確認したい点がございます。

本日は、教育委員会の皆様に対して、それらの点を確認させていただき、その回答なども踏まえまして、事実関係の再調査の必要性などについて、登別市長として見解をお示ししたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いを申し上げます。

**服部総括主幹：**それでは会議の進行は、登別市総合教育会議設置要綱第4条の規定により、市長が議長となっておりますので、よろしくお願いたします。

**小笠原市長：**それでは早速会議を始めさせていただきたいと思えます。

本日は、次第3質疑応答において、7月1日に手交を受けた登別市重大事案対策委員会調査報告書および調査結果に対する遺族の所見、並びに、登別市立中学校における重大事態の再発防止策の内容に関し、最終確認を行い、それを踏まえて再調査の必要性に関し

見解を述べたいと思っております。

まず初めに、3 質疑応答の（1）に当たります「登別市重大事案対策委員会調査報告書及びこれに対する遺族の所見について」でありますけれども、7月1日に手交を受けてから約2週間かけて、私なりにその内容を読み進め、慎重に精査をしてみました。

そこで、調査報告書の内容につきまして、私の方からいくつか確認したい事項がございます。

まず、いじめ防止対策推進法第28条第2項の規定は、重大事態に係る事実関係を明確にするための調査を行ったときは、いじめを受けた児童の保護者にその情報を適切に提供するよう定めています。

そこで改めて確認いたしますけれども、重大事案対策委員会からの調査報告書の答申以降、その内容に関し、遺族に十分な説明を行ったということによろしいでしょうか。

**中島参与：**ご遺族に対しましては、重大事案対策委員会の調査が行われている段階から、同委員会の会議の前後や月命日に面会を行いました。

調査の途中段階でありましたので、いじめの事実認定などについてお伝えをすることはできませんでしたが、調査の進捗状況に関して、説明を行ってまいりました。

また、答申に当たっては3月上旬に改めてご遺族に面会して、調査結果の報告書の内容について、詳細に説明を行わせていただきました。

した。以上です。

**小笠原市長：**その結果として、遺族に再調査を求めない旨のご所見をいただいたものと私自身も読みましたけれども、そう理解してよろしいですか。

**中島参与：**そうですね。

**小笠原市長：**わかりました。それでは次に、調査報告書に関し、もう一点確認致します。

報告書でいじめに関係したと指摘されている生徒やその保護者は、そのいじめの事実認定を含め、調査報告書の内容を受け止めているということによろしいでしょうか。

**中島参与：**いじめの定義につきましては、加害側の捉え方以前に、当該児童・生徒が一定の人間関係にあるものから、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているか否かで判断することになりますが、今回の事例に関して言えば、3月22日の答申以降、4月7日までの間に、関係する生徒とその保護者に面談を行いまして、いじめの事実認定を含めて、報告書の内容を受け止めていただいているものと認識しておりますし、私達、その面談に同席をいたしました。そこの中でも、反省の気持ちを強く感じることができたところでございます。以上です。

**市長：**わかりました。内容について把握し、そして受け止めているということによって理解をさせていただきます。

次に、質疑応答の(2)「登別市立中学校における重大事態の再

発防止策について」でありますけれども、これもいくつか確認をさせていただきたいと思います。

再発を防止するためには、教育現場だけではなく地域が一体となった取組が必要と考えておりますけれども、そうした意味でも教育分野の知見だけでなく、他分野の皆様から広く意見を伺うことが非常に重要だと考えておりますけれども、策定にあたり、そうした工夫はどのように行ったかお伺いしたいと思います。

**中島参与：**市長と同様のご意見を教育委員の皆様からもいただいたところでした。

このため、校長会や私立幼稚園協会など教育に携わる団体のほか、社会福祉協議会や商工会議所、連合町内会など、まちづくりに関わる多様な団体からの推薦者をメンバーとしまして、登別の教育推進に関する検討会議を設置して、同検討会議から再発防止策に対するご意見をいただきました。

具体的には、調査報告書の答申を経て再発防止策の素案ができた段階で、教育委員会の審議と並行して、本年5月から6月にかけて2回の会議を行いまして、防止策に対する意見をいただいたところであり、その内容を再発防止策に反映するなど工夫を行いました。

ある委員さんからは、こんなご意見をいただきました。

「それぞれの教師に語られた悩み、生徒指導上の問題行動、こうした事例をすぐにパソコンに打ち込み、担任や部活動の教師にスピード感を持って情報を伝えられたらと考える」と、こういうご意見

をいただきましたので、私どもの再発防止策には、このような委員  
さんのご意見を次のように反映しました。

「児童生徒情報の共有強化、具体的には児童生徒に関する心身の  
状態等の情報について、教職員間あるいは学校と家庭の間で迅速か  
つ緊密に共有できる体制を強化する」ということで、当該中学校を  
始めとした市内の中学校では、具体的に校内ネットワークを用いた  
生徒指導情報の即時共有、定例職員会議時に行う生徒指導事例研修、  
養護教諭と学級担任を繋ぐ来室者カード記載の徹底と管理職への  
報告、部活動における指導状況記録簿の記載の徹底と情報共有、す  
でにこれらの取組は開始しているところでございます。

あともう一点。「今一度、ゲーム障害を含むSNSへの依存体質  
に陥りやすい状況、SNSの危険性を理解してもらい、SNSと上  
手に付き合う術を身につけてもらい、特に保護者の理解が重要」と  
いうご意見をいただきましたので、私どもは再発防止策に登別市学  
校教育情報化推進計画に基づいた施策の推進、さらには情報モラル  
に関する学習指導の充実これらを再発防止策に反映をさせました。

具体で申しますと、7月8日、先週になりますけども、校長会議  
がございまして、その中で、このようなリーフレット、保護者向け  
です。「自分の子供は大丈夫？」というものなのですが、インター  
ネット社会を安全に生きるためにということで、これを校長会議の  
日に私達からお示ししまして、これを即日、各学校に周知をしまし  
て、保護者の方に配布さらには、児童・生徒への指導もあわせて行

うように指導をしております。

さらに、情報モラル啓発資料としまして、このような子供たちの「インターネット利用に関する家庭内での対策について」というものをお示ししました。

このような啓発資料を月に一度、市教委から各学校に送付をしまして、児童生徒への指導、そして保護者への啓発を進めてまいりたいというふうに考えております。以上、具体でした。

**小笠原市長：**ありがとうございます。

ということは、今、工夫内容をいろいろご紹介いただきましたけど、すでに取り組んでいるということですね。

**中島参与：**はい、そのとおりです。

**市長：**それは、学校側の方としても、生徒の方としても、安心材料として、情報提供がなされているということですね。

**中島参与：**そうなればいいなと思ってます。

**小笠原市長：**となると、登別の教育推進に関する検討会議を設置して、5月、6月に2回の会議を行って、今、言われてましたけれども、検討会議っていうのは、当然ながらこのまま存続というか、続けられるだろうと推測するんですけど、その辺の見解と、その検討会議そのものが、これからどんなふうに定期的に運営されていくのか、それとも突発的に事案があったときにご意見伺うために開催するのか、その辺のスケジュール感みたいなものを、教えていただけますか。

**中島参与:**本来でありましたら、登別の教育推進に関する検討会議は、教育関係の施策を進める上で突発的といいますか、臨時的に開かれる検討会議でございましたが、このように再発防止策をつくって終わりではなくて、必ず点検評価をして、今後の見通しというのもお話しなければなりませんので、今のところ、年度の始めであるとか、年度の終わりに、その前年度の取組の成果と課題を、この検討会議で明らかにしまして、私どもこのように進めてまいりますというお話を定期的にお知らせするために、開催していきたいというふうに考えております。

**小笠原市長:**もう一度確認ですけど、検討会議がずっとあるってことでいいですね。

**中島参与:**はい。

**小笠原市長:**それと、今、言われたように、原則年1回は、その当該年度の報告と次年度に対する予定というか、計画みたいなものをお示ししてご意見をいただくということですね。

**中島参与:**はい、そのように考えております。

**小笠原市長:**わかりました。再発防止策について、わからない点がありましたので、確認させていただきました。

実はもう1点ございまして、再発防止策の部分で、再発を防止するためには、教員個人の資質に左右されず、教員が代替わりしても継続されるものでなくてはならないと思っております。

そうした意味では、再発防止策を実践し、定着させることが重要

だというふうに考えているのですが、そうした点で工夫しているところというのは、その報告書の中の文章上では、こういったところに反映されているでしょうか。

**中島参与:** 市長ご指摘のとおり、再発防止策を持続可能な取り組みにすることができる体制づくりが必要と考えております。

教育委員会としましては、学校教育グループが中心となり、いじめの定義の再確認に関する教職員研修の実施や相談体制の充実、地域とともにある学校づくりの推進など、これまでの取組の改善や新たな取組の実施など、いじめの防止の取組を推進してまいります。

具体でどのように表れているかというところでございますが、各小中学校のいじめ・不登校等対策担当者、生徒指導部長から構成する登別市いじめ・不登校等対策会議におきまして、各学校の取組状況、事例の共有や研修を行い、いじめの未然防止や教職員の指導力向上を図るとともに、児童生徒に対するSOSの出し方に関する教育を推進し、再発防止策の定着に取り組んでまいります。

また、再発防止策には後半部分で教育委員会・学校の取組に関する検証というところも（6）で挙げられておりました。

これらの取組については、各小中学校13校でそれぞれ点検を行ってまいります。

また、法令に基づいて教育委員会が行う教育委員会の権限に関する事務の点検・評価において、これらの取組を盛り込みまして、教育に関する学識経験を有する行政外部の方から、ご意見をいただく

こととしております。

この行政外部の方といいますのは、今年度はまだこの点検評価の委員会を行っておりませんが、昨年度の例で申しますと、3名おりまして、日本工学院北海道専門学校の前校長、登別市退職校長会の会長、登別市郷土資料館の前館長、これらの方々にご意見ご助言をいただくような懇談会を設けまして、取組を盛り込んでいきたいというふうに考えております。

さらには、登別の教育推進に関する検討会議、先ほどお話ししましたとおり、そこでも検証を行うなど、複数の視点から検証を行ってまいりたいと考えております。以上です。

**小笠原市長：**再質問ですけれども、学校教育グループの方でいろいろと点検とかもされるんですか。

毎年度スケジュール化される予定なんですか。

**中島参与：**はい。

**小笠原市長：**これはその相談体制だとかいろいろあるんで、学校にも関係すると思うんですけど、常に学校とのやりとりをスケジュール化した中で、ルーチン業務みたいにしてやっていくという考えでいいですか。

**中島参与：**そうですね。今、前段でお話ししました教育に関する学識経験者からご意見いただく点検評価委員会がございますので、そちらの方にかける前に、各学校にもP D C Aで振り返っていただいて、しっかりと成果と課題を洗い出してから、そちらの委員会にか

けるというような流れになっております。

**小笠原市長：**わかりました。もう一点なんですけど、教育委員会の方でいろいろと、評価や点検をするというふうにおっしゃってましたけど、その各小中学校、13校ありますけど、その13校が、各々点検をするというふうにおっしゃってました。

これは、先ほどおっしゃったその外部の方から意見をいただいたり、検討会議に出して検証を行ってもらうのは、先ほどと同じ、年度末あたりを予定しての点検ということでしょうか。

**中島参与：**教育委員会の点検評価委員会は実は年度末というよりも年度初めに、前年度の点検評価を行っております。

**小笠原市長：**前年度の1年間を、新年度が明けてからやるということですね。そのときは13校の学校長全員が1人ずつ説明員みたいな形で説明してくれるんですか。

**中島参与：**そこまで具体的には考えておりません。

**小笠原市長：**具体的に説明する方が、それぞれの学校の責任者としていらっしゃった方がいいですよ。

**中島参与：**おそらくですけども、教務主任であるとか教頭が中心になって進めていくとは思うんですが、チェックリスト等を市教委の方で用意しまして、多岐にわたる項目でありますので、そちらの方をチェックしていただくという形で考えてます。

**小笠原市長：**わかりました。今回説明していただき理解いたしました。ありがとうございます。

これで私の方としては、今の対策の関係、再発防止の対策と調査報告書の関係のわからなかった点、質問の点は終わらせていただきたいなというふうに思います。

教育委員の皆様は、いろいろ聞きたいんですけども、教育委員の皆様におかれましては、死亡事案の発生から事実関係の調査そして再発防止策の策定まで本当にご尽力をいただきました。

その過程でそれぞれ感じる場所があったのかと思います。

そういった意味ですね、教育委員を代表して、今日は2名から一言ずつお聞かせいただければなと思いますが、最初に、赤井委員からお願いいたします。

**赤井委員：**委員会の際に、教育委員として意見を求められました。

そのときに言ったことの中から、ちょっと話しますけれども、一つは、先ほど参与から話されました、いわゆる情報共有のために、私は、教育は人なりという言葉で、大変重んじてまして、やはり教師が、教師間で子供のいじめや生徒指導法について、やっぱり早くわかって、そしてさらに校内LANってというのが、各学校でちゃんとできていますから、そういうのを通して、素早く情報のやりとりをすることが、早期発見に繋がっていくんじゃないかなということ提起したんですよ。

それからもう一つは、学校に来ることが楽しいと思えるような学校づくりをしなきゃ駄目じゃないかっていうことを、日々、教育活動に配慮が必要なんじゃないかと。

それからもう一つは、いじめや不登校については、特にいじめは、いつでも、どこでも起こり得ると、そういうことを、やっぱり押さえておかなきゃ駄目なんじゃないかなと思っています。

教科として指導することはもちろんですけども、教育活動で、きめ細やかな指導があつてしかるべきです。

こういうことも、やっぱり、日常、先生方がきちっと押さえておかなきゃだめなんじゃないかと。特に、子供と触れ合う時間が多くなきゃ駄目じゃないかと。このあたりは、やっぱり働き方改革を進める今、委員会でも進めていますけれども、委員会の支援っていうか、そういうことで、教師の支援が必要になってくるんじゃないかなと思っています。

それからもう一つは、登別市では、コミュニティスクールや小中一貫、それから少人数指導といった、やはり特色ある教育活動について、9年間の指導を通して、生きる力を育てることに力を入れていますから、私は、今回のこの提言を受けて、こうしたことが必ず実を結んでいくんじゃないかなと思っています。

いずれにしても、こうしたことを二度と起こしてはいけないので、地域や保護者、それから教師、教育委員会が共に手を取り合つて、進んでいくことが必要なんじゃないかなというふうに思ってます。以上です。

**小笠原市長:**ありがとうございます。たぶん現職時代に培われたその先生がすべき行動規範といいますか、そういった意思の向上が大

事だっていうことと、先ほどおっしゃっていた先生方のサポート体制がやっぱりこれからはもっと必要だっていうことですね。

今、市長部局の方も身にしみていますので、それを重く受けとめたいなっていうふうに思っております。

もうひとつ、3人皆さんに聞きたいところなんですけど、最後に堅田委員から願います。

**堅田委員:** ちょっと唐突なんですけども、ハインリッヒの法則ってご存知でしょうか。

労働災害とか労働事故の経験則で、最近はやリハットって言ってますけども、一つの重大事故の背後には、29の軽微な事故があって、その背景には300の異常が存在するっていうことなんです。

今回、重大事例がありましたけれども、そこに突発的に出てくるということは、おそらくないんじゃないかなっていうのをずっと考えてたんですけども、ということは、いろんなサインが、どこかですり抜けていっちゃったのかなというふうに思います。

それはもちろん先生方、学校、家庭、地域、いろんな何と言いますか、気付ける目が、残念ながら足りなかったのかなっていうふうに思っていたんで、今後、こういう再発防止策がしっかりできましたので、これを元にですね、そういう見てあげられる大人の目っていうのを育てる、大きく言えば、まちづくりにしてもらいたいなというふうに、最後は思いました。

やっぱり、学校、先生だけにそれを求めるのも酷ですし、親の責

任かという、それも、それだけでもないと、そうなるとやっぱり地域の方々の見守る目が、非常に大事かなと思いますので、できれば、市長の方からそういったまちづくりにメッセージを出していただければと思います。

**小笠原市長：**そうですね。今回の再発防止策、重大事案対策委員会からの指摘事項、これらを踏まえ、教育委員会で、本当に、真摯にいろいろ検討を重ねながらつくられたというふうに認識しておりますが、今、堅田委員がおっしゃっていた生徒のつらいサインっていうのを、やはり再発防止策の中で、地域の大人全員が、それを見抜ける目っていうんですか。それを何とか養っていけるように、私達もこれから、ただ単に再発防止策を学校や教育委員会だけで行動していくんじゃなくて、地域に発信できるように、私の立場からも、各団体に相談していきたいなと思います。

それだけ協働本部の方でも、町内会の皆さんとか、社会福祉協議会の皆さんとか、本当にいろいろやったださってますし、民児協の方なんかは特に、親身になってくださいますので、私から改めて、堅田委員がおっしゃっていた内容を、地域全体で見ましょうということで、啓発していきたいなというふうに思っております。いろいろありがとうございました。

教育委員会制度が変わって久しくなります。本来であれば委員長、教育長の2大体制がありましたけれども、大津の事件以来、教育委員会制度改革がありまして、教育長が教育委員長の分も、いわゆる

責務を担うということで、責任が明確化されるということでございますが、この総合教育会議の方も、その首長とのやりとりの中では、私自身が教育長を任命した責任もありますので、任命権者の責務としては、教育長だけではなくて市長である私も責任を負うということになりますので、そういった意味では、今回の事案、本当に痛ましい事案でありますけれども、改めて、今後、こういうことが起きないように力を合わせて、市長部局そして教育委員会の皆さんと、そして地域の全ての大人の皆さん方とともに、これからさらに考え、そして考えるだけではなくて、行動に結びつけていきたいなというふうに今、思った所存でございます。

教育長の方からですね、最後に一言お願いいたします。

**武田教育長：**一部重なってる部分もあるかなというふうに思いますが、まずは、詳細な調査を実施していただきました登別市重大事案対策委員会の5名の委員の皆様には、本当にそれぞれの専門分野の知見を生かしながら、使命感を持って熱心に調査・審議を重ねていただき、そして再発防止も含めた報告書としてまとめていただきましたことに、心から感謝を申し上げるところであります。

教育委員会では、この調査報告書の内容を真摯に受けとめるとともに、二度とこのような悲しい出来事を起こしてははならないという決意のもと、様々な分野の方々からご意見をいただき、その上で再発防止策の策定を進めてまいりました。

先ほど説明をしましたように、防止策につきましてはすでに一部

取り組んでいるものもございますけれども、学校においては、いじめはどこでも誰にでも起こり得るという認識のもとで、学校いじめ防止基本方針の徹底を図り、学校全体の問題として、組織的な取組を進めていただくとともに、教職員一人一人がより感度を高めて、子供たちの変化を見逃すことなく、未然防止や早期発見に努めていただくように指導していきたいと思っております。

また、私ども教育委員会としましても、いじめ・不登校等対策会議を通して、学校、家庭、地域、関係機関、そしてまた市長部局とも連携をしっかりと図りながら、社会全体で問題意識を共有して命や人権を大切にする心など、豊かな人間性を育むために、道徳教育あるいは人権教育の一層の充実に取り組んでいきたいなというふうに思っております。

二度とこのようなことを起こさないということを肝に銘じて、全力で取り組んでいきたいと思っております。以上です。

**小笠原市長：**ありがとうございます。

教育長そして教育委員の皆さんから一言ずつ伺いました。

改めて、7月1日に手交を受けて以降、私自身、調査報告書を読み進めまして、その内容を慎重に精査してまいりました。

このうち、事実関係の調査については、今年の6月から本年3月までの9ヶ月にわたり、本当に慎重かつ丁寧な調査が行われたものと理解をしております。

調査の過程には、学校と、教育委員会による基本調査で、保護者

および部活動の所属生徒42人、および全校生徒292人へのアンケート調査、延べ78人に対する聞き取り調査を行った上で、対策委員会による詳細調査においても、約6ヶ月に渡って延べ43人に対する聞き取り調査を行うなど、改めて、慎重かつ詳細な調査が丁寧に行われたものと認識をしているところでございます。

慎重かつ丁寧な調査を行った上で、計12回の会議において、いじめの事実関係や死亡に至る過程、並びに学校や教育委員会の対応に関し、公平・公正な立場から検証がなされ、さらには、再発防止策に関する提言が導き出されているものと理解をしているところでございます。

加えて、本日いくつかの事項に関して最終確認を行わせていただきました。

また、遺族の方に丁寧な説明を行って来たという報告を改めて確認をさせていただきました。

さらには、その対策委員会の答申を踏まえてまとめられた再発防止策についても、教育分野だけではなくて様々な分野の方から意見をいただき策定したということで、そのことも質問で確認をさせていただきました。

私としましては、遺族の方やその他の関係者の方の気持ちに思いを致しながら、この約2週間、調査報告書の内容を慎重に精査してまいりました。

本日、教育委員会から聞かせていただきました様々な内容も含め

まして、慎重かつ詳細な調査が丁寧に行われてきたこと、その調査結果に基づき、公平かつ公正な検証が行われたこと。

また、この間、遺族の方に丁寧な説明が行われてきたことが確認できましたので、関係者の思いを重く受けとめながら、事実関係の調査結果に再調査すべき点はないものと判断したいと思います。

また、再発防止策につきましても、今回の反省を踏まえ、いじめの発生を未然に防ぐ取組から、児童生徒の変化を察知するための取組まで、あらゆる段階を押さえたものになっているものと考えます。

今後は、教育委員会として、実際に取り組んでいただきたいと思えますし、市長部局といたしましても、まちづくりの観点から全面的に協力させていただきたいと思えます。

特に、個人的にも、先ほど堅田委員がおっしゃったその大人の立場として、さらに多くの市民の皆様にも影響を及ぼせるように啓発等に取り組んでいければなというふうに今、心を新たにしているところでございます。

改めてこれまで、調査等に関わってこられました皆様に感謝を申し上げます。

そして、生徒の御霊の安らかならんことをお祈りを申し上げます。

最後に、「4 その他」について、各委員さんより何かございますか。

(「ありません」の声あり)

小笠原市長：なければ、事務局からございませんか。

服部総括主幹：ありません。

小笠原市長：それでは、私の議長の任を解かせていただきます。

服部総括主幹：それでは、以上をもちまして第1回登別市総合教育  
会議を終了いたします。

お疲れさまでした。